

第九講 シュノイクシモス後のアテナイ：貴族の反動と貴族社会の形成

シュノイクシモス

暗黒時代の身分差別（社会的エリートと庶民）の解消と市民団の間の平等化

シュノイクシモス後

新たな身分の差別化の進行

一つの結果としてのヘクテモロイ

ヘクテモロイとは

隷属小作人

「六つに分ける」・・・地代

収穫物の六分の一（約 16%）を地代として納める

収穫物の六分の五（約 84%）を地代として納める

（参照）「利息制限法」

10 万円未満・・・20%上限

100 万円未満・・・18%上限

100 万円以上・・・15%上限

六分の一は重い負担なのか？

問題化の背景

前 594/3 年 ソロンの改革

重荷卸し・・・借財の帳消し

ソロンによってヘクテモロイの存在が意識化されていった

又はヘクテモロイの問題が意識化されるようになったので改革が行われた

文献史料の問題

アリストテレス、『アテナイ人の国制』

前 4 世紀のもの。ソロンより 200 年以上のち

ソロン時代・・・貨幣経済以前

アリストテレス時代・・・貨幣経済、銀行業も盛ん（パシオンという銀行家）

ストーリーの構成：二段階を経ての奴隷化への疑問

借金→返済不能→債務の取り立て＝土地の差し押さえと旧所有者の

小作人化→小作料の債務不履行→ヘクテモロイの奴隷化

ヘシオドス、『仕事と日』との比較

隣近所の生活の中での借財

モノを借りてモノで返す→近隣社会での互助と信頼醸成
借りたモノを返済しない→近隣社会からの排除=村八分

→誰も貸してくれなくなるし相手にしてくれなくなる

必ずしも奴隷化を意味しているわけではない

後世のヘクテモロイに関する文献史料は疑ってかかる必要がある

考古学からのアプローチ

イアン・モリスのデータ

アテネにおける成人と未成年者の埋葬数のグラフ

成人と未成年者の比率（未成年者数／成人数×100）

前 800	前 720	前 650	前 600	前 550	前 500
10%	110%	75%	12.5%	30%	40%

未成年者の共同体成員からの排除→共同体墓地からの排除

未成年者の共同体成員からの排除は身分制社会の排除の論理を示す

ポリス成立以降、アテナイでは埋葬に資格制限によるスクリーニングが強化されていった→未成年者の被葬者数の減少につながる

同時に身分による埋葬の資格化が強化され、被葬者数の減少につながる

前 670／前 750・・・成人の被葬者数が約四分の一弱に減少

前 7 世紀中葉は暗黒時代よりも被葬者数は少ない

クーロス像の建立

等身大（それ以上）の青年像

被葬者一族の富と社会的牽制を誇示する

有力者間の激しい競争→名誉と権力をめぐる闘争を反映

コレー像の奉納

神々に少女像を奉納する

奉納した一族の富と名声を顕示

シュノイキスモス後の社会

貴族（hoi gnorimoi）と大衆（to plethos; hoi polloi）・民衆（ho demos）の峻別